

幼児の心をたいせつに



玉川美枝

「先生おはようございます」元氣な
 かわいひびきが園内に広がり、楽し
 い園生活の一日が始まります。そして、
 そのときから園児の視診と指導も始ま
 ります。
 登園後の自由遊びの時間、おかたづ
 けの時間、そして学級での活動の時間
 へと進む中で気のゆるみは全くゆるま
 れないのです。
 自由遊びのときの視診はたいせつで
 す。年少・年長組や一年保育児も二年
 保育児の区別も、また男女の別もなく
 自由に伸び伸びと遊ぶことのできる時
 間は、朝の自由遊びの時間です。一人
 一人が遊びをつぎつぎと見つけ、それ
 が核となってグループ遊びへと輪を広
 げていくこともしばしばです。

園児たちは、遊具と遊び、虫と戯れ
 る中で会話ができるようになり、友達
 ができ、そして他人の気持ちも理解で
 きるように育ってきます。わたしたち
 はこうした遊びの中で育つものをたい
 せつにしながら保育活動に励んでいます。
 オルガンやピアノを弾いて「とつ
 とじようずね」と先生のほめことば
 を待っている子。「あら、前よりもずつ
 とじようずになったのね」などと進歩
 を認めてやると、近くの子も得意な楽
 器を持ち出していつしか合奏になっ
 ていきます。また、カマキリ二匹を向か
 い合わせてけんかをさせ、「羽を広げて
 かまを大きく上げた方が勝つよ」と喜
 んでいる年少組の男の子。
 「でも負けた方は食べられるからか

わいそう。二匹を別々のかごに入れよ
 う」といつて弱い方に肩入れする男の
 子。小さな虫にもやさしい心づかいを
 見せるようになった園児の姿を見るた
 びにわたしたちの心はなごみます。
 こうした好ましい情景は、日常生活
 のあちこちに見られます。

指をぶっつけて泣きじゃくっている
 女の子の指をやさしくもんでやり、「も
 うすぐよくなるよ」といたわっている
 女の子は、家のおばあちゃんになつて
 のしぐさのようです。また、園服をぬ
 いで遊んだ後で着ることのできないお
 友達にそでを通し、ボタンをかけてや
 っている女の子は、お母さんの模倣で
 しょうか。

園児の汚れない、澄みきった美し

い心は、ほんとうにかわいいものです。
 遊具や楽器や虫に心をひかれ、ガラ
 ス玉を宝のようにたいせつにしている
 姿に接するとき、私たち教師もいつし
 か園児そのものの心になってしまいます。
 園児の言葉やしぐさは、私たちにい
 ろいろなことを教えてくれます。

すぐ友達とけんかをする男の子。母
 親の姿を追って泣き出す小さな子。お
 しゃまでもの知り顔の女の子。どの子
 もどの子も毎日喜んで幼稚園に通つて
 きます。そんな園児たちのレベルまで
 自分を下げていつしよに遊びながら、そ
 の中から多くの教育の手がかりを得よ
 うと努めている毎日です。

わたしたち教師は、このようにして
 園児に対して教えてやろうという構え

を捨て、子供のもつ内
 なるものへのはたらく
 かけや、伸びようとす
 る芽をそっと引き出し
 育てようと心がけてい
 ます。なにげない園児
 の表情や動作の一つ一
 つに隠されているほん
 とうの気持ちを讀みと
 れる教師。その気持ち
 をたいせつにできる教
 師になろうと、これか
 らも勉強しようと思っ
 ています。

(下郷町立

下郷幼稚園教諭)



コオロギさんになって